北区のお宝マップ

第4版

新潟市北区フォトメイクコンテスト／イラスト部門優秀賞　関 悠子さん作「北区はときめき玉手箱」

新潟市北区の概要

■位　置

北区は新潟市の北東部、阿賀野川下流右岸に位置しています。東は新発田市、聖籠町に、南は阿賀野市に隣接しています。

方位	緯度・経度（世界測地系）
極北	北緯 38°01′
極南	北緯 37°51′
極東	東経 139°16′
極西	東経 139°07′
面積	107.92 ㎢
区役所所在地	新潟市北区東栄町1丁目1番14号

●人口　（2020年11月30日現在）

	北区	新潟市
合計(人)	73,286	785,126
男	35,850	378,145
女	37,436	406,981
世帯数(戸)	29,532	343,581

▲海から 1993(平成5)年

▲阿賀野川から 1993(平成5)年

▲福島潟から 2004(平成16)年

■地　形

北区は、中央部葛塚から北部の日本海まで、海岸線と平行に形成された砂丘列地帯が、市内で最も発達した地域です（マップの黄色部分）。これは新潟型砂丘と呼ばれ、区内には9列あり、標高20mを超えるところもあります。道路の内容などから、内陸にある砂丘列ほど形成時期が古いことがわかっています。砂丘上には松林が残され、砂丘列と砂丘列の間の低地（サンペい）は、水田となっています。

南には阿賀野川や駒林川の氾濫原であった豊栄低地が、見事な美田として広がっています（マップの薄黄色部分）。

東南には福島潟があり、流出する新井郷川は日本海に注いでいます。

阿賀野川、新井郷川、砂丘列、福島潟、遠くには二王子岳や五頭連峰、いつも見慣れた景色の中に、大地の誕生を解く鍵が隠されています。北区は越後平野のおいたちを物語る典型的な地域です。

■豊かな自然ー福島潟ー

262haの湿原「福島潟」では、220種の鳥類と470種の植物が確認されています。国際的にも注目されている自然の宝庫です。

夏には、絶滅が心配されるスイレン科のオニバスが観察できます。保護が徹底し、毎年花を咲かせ、種を作っている全国でも数少ない場所の1つです。

冬のシンボルは、国の天然記念物で、ガンの仲間であるオオヒシクイです。飛来数は5,000羽を超え、福島潟は国内最大級の越冬地です。

▲オニバス

▲オオヒシクイ（2015年1月 北区の鳥に制定）

■あらまし

年	北区の出来事
1954年（昭和29年）	松ヶ崎浜村が新潟市へ編入合併(4月) 葛川村、両浜村が新潟市に編入合併(11月)
1955年	葛塚町、大越村、明方村が合併し、豊栄町ができる。人口26,122人（3月） 五泉法人意生会が亀田病院を開業（7月）
1956年	自動車全盛、新幹線開業（4月）
1957年	黒山駅-早通駅間複（2月）
1958年	国鉄法人責任会が松浜病院を設立（11月）
1959年	豊栄町と長岡村合併 人口34,625人（7月）
1960年	豊栄町浜通地区が新潟市へ分離編入し、石郷町と合併（4月）
1961年	新井郷川排水機場（起伏1基：7月） 第2室戸台風発生、被害甚大（9月）
1962年	豊栄町役場新庁舎完成（3月／2021年1月までの北区役所庁舎として使用）
1964年	新潟地震発生、震度5、M7.5（6月） 三社記事病院病室（10月／1971年4月2日、現在地に新築移転） 松浜橋（3代目・現）完成（12月）
1965年	日本大規模会 新潟競馬場廃止式（5月）
1966年（昭和41年）	7・17水害発生
1967年（昭和42年）	豊栄高校の第1回入学式が葛塚中学校で行われる(4月) 新潟港が特定重要港湾に指定（6月） 8-28水害発生
1968年	大正浜に日本キリスト教団が敬和学園高等学校を設立（4月）
1969年	県住宅供給公社造成の早通団地の分譲開始（5月） 新潟東港の造成式（11月）
1970年	豊栄市市制施行（1月）
1975年	国営福島潟干拓建設事業完工式（3月）
1976年	葛塚駅を豊栄駅に改称（4月）
1978年	6-26水害発生
1979年	新潟東港の石油備蓄基地が完工（6月）
1982年	駒林山排水機場完成（7月）
1989年（平成元年）	新発バイパス全線開通（9月）
1995年（平成7年）	新井郷川排水機場（2代目・現）の完成通水式（2月） 新潟東北福祉大学発生、M6.0、豊栄市内は震度4の揺れ（4月） 新潟東港が日本海側唯一の中核国際港湾となる（6月） 8-3水害発生、新発田川放水路緊急通水
1998年（平成10年）	新潟東港国際コンテナ埠頭の供用開始（9月）
1997年	胡桃山排水機場増強、完工式（5月） 大阿賀橋が開通（7月） 豊生温泉保養館の新築オープン（9月）
1998年	潟辺の森キャンプ場オープン（7月） 8-4水害発生
2001年	新潟医療福祉大学が開学（4月） 五泉法人愛宕会が北山病院を新潟リハビリテーション病院に改組（4月）
2002年	日本海東北自動車道　新潟空港IC～聖籠新発田IC間通る(3月)
2003年	福島潟放水路通水式（3月）
2004年	新潟地域（新潟・亀を除く）の合併協定書調印（3月）
2005年	新潟地域12市町村が新潟市に編入合併（3月2日）、後に亀町が編入（10月）、人口813,847人（2005年国勢調査、県初の市場）
2006年	豊栄駅が橋上駅舎となる（3月）
2007年	本州日本海側初の政令指定都市「新潟市」誕生、区制スタート（4月1日）
2009年（平成21年）	こざれ中阿賀橋開通（9月） トキの野鳥国内生息誕生計画会が豊栄組合体育館で開催（10月）
2010年（平成22年）	北部防衛都市会（国）完成（3月） 北区文化会館オープン（6月）
2015年	オオヒシクイが区の鳥に制定（1月）
2017年	北区出身の力士 豊山関が幕内に昇進（5月） 北区役所新庁舎基本構想骨子案を公開（5月）
2018年	新潟食料農業大学が開学（4月） 住民数令150年で、北区の動態の志土地と住民を取り上げたシンポジウムなどが開催される
2020年	新型コロナウイルス感染症が広がり、感染拡大防止のため、学校が休校。 阿賀野川にてそれぞれ北大・温度差つけましょは、地域の祭りや各種イベントが中止となる
2021年（令和3年）	新しい北区役所・豊栄地区民館がオープン（2月1日）

▲2021（令和3）年

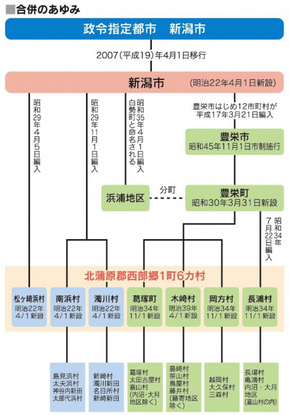
▲1996（平成8）年

▲2002（平成14）年

▲2003（平成15）年

▲2009（平成21）年

■合併のあゆみ



■北区の指定文化財・登録文化財の一覧

区分	No.	種別	名　称	員数	指定年月日	所有者・管理者
市指定	1	天	高森のスケヤキ	1	S31.3.23	稲荷神社（高森）
市指定	1	民芸	他門の神楽	1	S38.1.12	他門神楽保存会
市指定	2	民芸	嵐山の神楽	1	S38.1.12	嵐山神楽保存会
市指定	3	民芸	内島見の神楽	1	S38.1.12	内島見神楽保存会
市指定	4	民芸	葛塚盆踊り	1	S38.1.12	豊栄郷土民謡保存会
市指定	5	民芸	内沼獅子舞	1	S38.1.12	内沼獅子舞保存会
市指定	6	民芸	高森の神楽	1	S38.1.12	高森神楽保存会
市指定	7	民芸	長場の神楽	1	S38.1.12	長場神楽保存会
市指定	8	民芸	正穴の神楽	1	S40.7.15	正穴神楽保存会
市指定	9	歴資	豊栄市役所文書	6834	S46.8.30	新潟市北区郷土博物館
市指定	10	歴資	佐藤家文書	3112	S46.8.30	新潟市北区郷土博物館
市指定	11	古	倉橋家文書	677	S48.6.18	新潟市北区郷土博物館
市指定	12	工	赤絵花菱蒲帯文灯籠	1対	S58.3.31	上宮社（太子堂）
市指定	13	工	垂絵金彩武者絵深鉢	1	S58.3.31	新潟市北区郷土博物館
市指定	14	考	市内遺跡出土品	72	S58.3.31	新潟市北区郷土博物館
市指定	15	考	鳥屋遺跡発掘調査出土品	1括	S59.4.1	新潟市文化財センター
市指定	16	考	上興山遺跡出土品	1括	S59.4.1	新潟市北区郷土博物館
市指定	17	歴資	北区陣関係資料	132	H9.3.31	新潟市北区郷土博物館
市指定	18	歴資	木崎小作争議関係資料	675	H9.3.31	新潟市北区郷土博物館
市指定	19	有民	福島潟周辺植料	442	H9.3.31	新潟市北区郷土博物館
市指定	20	天	大久保のスケヤキ	1	H12.5.26	神明社（大久保）
市指定	21	建	法浄寺	1	H13.11.3	法浄寺（潟川）
市指定	22	考	翠嶺期出土　条里1遺跡1号溝土器	1	H14.3.8	新潟市文化財センター
市指定	23	歴資	下興野新田組記	4	H17.3.18	新潟市北区郷土博物館
市指定	24	工	色絵金彩雅鳳文蝋涙花瓶	1対	H17.3.18	新潟市北区郷土博物館
市指定	25	工	染付蓮魚図平鉢	1	H17.3.18	新潟市北区郷土博物館
市指定	26	古	真政二度戻年　福島潟絵図	1	H17.3.18	新潟市北区郷土博物館
市指定	27	歴資	納向神社結語石柱	1	H17.3.18	内沼神社（内沼）
国登録	1	建	大古山三兵衛　主屋・仏壇	2	H12.4.28	（財）大古山自然文化財研究所
国登録	2	建	内島見醸造蔵・仁王堂	2	H19.12.5	農場奉・内島見自治会
国登録	3	建	石動神社　本殿・拝殿	2	H20.7.8	石動神社（白新町）
国登録	4	建	古峯神社　本殿	1	H20.7.8	石動神社（白新町）
国登録	5	建	稲荷社　本殿・拝殿及び覆殿・神輿庫	3	H20.7.8	稲荷神社（葛塚）
国登録	6	建	諏訪神社　拝殿	1	H20.7.8	稲荷神社（葛塚）

（種別について）天＝天然記念物、民芸＝民俗芸能、古＝古文書、工＝工芸、考＝考古、歴資＝歴史資料、有民＝有形民俗文化財、建＝建造物

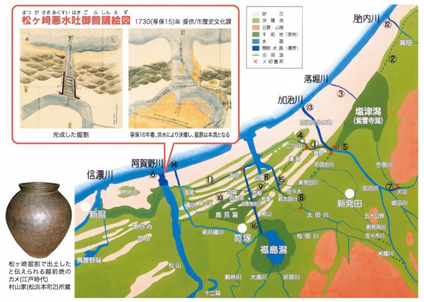
河川改修と福島潟の新田開発

■近世の大工事ー松ヶ崎掘割ー

江戸時代以前は、砂丘に遮られて荒川河口から信濃川河口までの間に、日本海に直接流入する河川はありませんでした。そのため、内陸には広大な湿地が広がり、人々は常に水との闘いを余儀なくされていました。

新発田藩は、新発田城下や福島潟の干拓を目指し、1730（享保15）年に幕府の監督の下、阿賀野川を松ヶ崎で掘り割り、日本海に直接流す工事を行いました。増水分だけを流す予定の掘割でしたが、翌年春の雪解けの洪水で、掘割は本流となりました。この結果、阿賀野川の水位は4尺（約1.2m）も下がり、福島潟周辺には広大な干上り地ができたといわれます。以後、区内の開発は急速に進展することとなり、葛塚をはじめ多くの村が成立しました。

松ヶ崎浜村はこの掘割が本流化し、村が分断されました。松浜は、現在の東区下山地区の人々などが移り住んで、拓いた町だといわれています。



①1655(明暦元)年	(加治川) 聖籠新川普請
②1698(元禄11)年	(塩津潟（紫雲寺潟）) 高畑村より胎内川へ掘り落とす
③1721(享保 6)年	(落堀川) 長者掘開削
④1727(享保12)年	(加治川) ニツ山(開削)
⑤1728(享保13)年	(加治川・塩津潟（紫雲寺潟）) 堤川〆切
⑥1730(享保15)年	(阿賀野川) 松ヶ崎掘り割る。翌年融雪時の洪水により本流となる
⑦1732(享保17)年	(今泉川) 現 坂井川を瀬替えし、加治川へ合流させる
⑧1760(宝暦10)年	(太田川) 太田川をメ切、新太田川を開削し、新発田川へ合流させる (新発田川) 大夫興野と藤寄の間を掘り割り、浦ノ入、切浦の間を通し、都頭で本川へ合流させる
⑨1781(天明元)年	(新発田川) 藤寄と笠柳の間を掘り割り、島見浦へ流す
⑩1807(文化 4)年	(新発田川) 島見浦の排水路を切り広げ、引縄、緑ノ入を通して本川へ合流する新発田川を開削
⑪1796(寛政 8)年 1862(文久 2)年	(加治川) 狐尾・大曲の瀬替え
⑫1888(明治21)年	胎内川放水路通水（10月14日 竣工式）
⑬1913(大正 2)年	加治川分水路通水（1914年 竣工）
⑭1933(昭和 8)年	新井郷川分水路通水（11月、1934年7月1日 新井郷川改修工事竣工式）
⑮1995(平成 7)年 1999(平成11)年	新発田川放水路通水（8月3日水流による緊急通水、11月1日通水式） 新発田川放水路竣工（11月18日）
⑯2003(平成15)年	福島潟放水路通水（3月16日通水式）

■福島潟の新田開発

近世の新田開発

幕府は1755（宝暦5）年、福島潟の開発を鎌崎村（現柏崎市）の山本丈右衛門に許可しました。丈右衛門は潟に流れ込む水量を少なくするため加治川や新発田川の改修、新太田川の開削などを行い、新鼻や太田地区など89町歩（約89ha）を開発しました。

1790（寛政2）年には、水原町の亀塚次郎など水原十三人衆に開発は譲り渡されます。彼らは、開発する場所を土手で囲み、水を抜いて水田にする方法や、潟に流入する河川の上流から土を流し、潟の底を高くする方法をとりました。また、潟の全面開発を目指し、浜垣子新道、山倉新道などの堤防を築き、潟を分割しました。しかし、洪水などにより開発はほかどうませんでした。

1824（文政7）年からは新発田藩が開発を行い、阿賀野川から新井郷川への逆水止めの工事や土流しなどを行いました。十三人衆の開発から1835（天保6）年までに新たに452町歩の田畑が開発されています。その後、新発田藩は、土木技術の限界を認識し、潟の全面開発を諦め、1855（安政2）年、潟水面540町歩を葛塚の豊藤七郎治や内沼の佐藤名平など地先の庄屋15人に譲渡しました。

近代の新田開発

1886（明治19）年から、葛塚の豪商 弦巻七十郎が潟の水面や新鼻新田を所有し、新々田などの開発を始めましたが、開発は進みませんでした。1911（明治44）年、潟は天王（現新発田市）の市島家の所有となり、山倉囲や市島囲が造成されました。

現代の新田開発

1956（昭和31）年、国は潟を市島家から買収し、1961（昭和36）年の新井郷川排水機場の完成を契機に、1966（昭和41）年から国営干拓を始めました。北側の湿地帯193haを遊水池として残し、169haの農地を生み出し、1976（昭和51）年3月に事業が完了しました。

この国営干拓事業の完了は、先人たちが行ってきた福島潟の新田開発の長い歴史に終わりを告げるものでした。

松浜稲荷神社　界隈

■松浜の高台にある神社

松浜稲荷神社のある場所は、高さ242.1mです。社殿の裏手には、国土地理院によって一等三角点が設置されています。これは、新潟市でただ1つの一等三角点です。

境内には松が生い茂り、島居の向こうには阿賀野川も望むことができます。ここには、地域の歴史を伝えるさまざまなものがあります。

まず、産土神として地域の人々の信仰を集めているのが、稲荷神社です。祭神は宇賀御魂命（倉稲魂）で、あわせて大日霊貴尊（天照大神）、誉田別尊（応神天皇）をまつっています。

このほかに、江戸時代からたびたび火事に見舞われた松浜の火除けの神様として信仰された古神社や、船人から信仰を集めた金屋龍神社もあります。

■松浜の恩人 村山得次郎

境内には、松浜の繁栄の基礎を築いた村山得次郎をたたえる頌徳碑も建っています。

◀松浜稲荷神社

◀松浜一丁一七の西

▲1・4・7・10日以上の縁日をもつ

得次郎は、1873～74（明治6～7）年、阿賀野川の洗州を新潟の湊元荒次郎の協力を得て堰の立て、新屋敷（松浜本町4）を造成しました。そして、新田が立ち始めたこの地で、ニ七を市日として市を開設したいと、1876（明治9）年に村人から県へ願いが出され、ほどなく許可となりました。

また、江戸時代以来、松ヶ崎浜前を港として利用することを禁じた、新潟町との契約を厳廃して、開港するために尽力しました。得次郎は、1886（明治19）年に志半ばに36才でこの世を去りますが、運動は引き継がれ、1893（明治26）年に交易港として帝国議会で正式に認可されました。その後、交易が盛んとなった松浜は大きく発展しました。

▲新潟市で唯一の一等三角点

▲村山得次郎の頌徳碑

ふるさとの原風景 新発田街道

■陸の道「新発田街道」

新発田街道は、新発田城下と沼垂や新潟の湊を結ぶ道であったため、この名で呼ばれています。北区では、笠柳～横井～内島見～木崎～木伏～新崎を通っています。この辺りでは通称「木崎街道」とも呼ばれています。

街道沿いにはハンノキや松が植えられました。夏は日陰をつくり、雪のときには道路の所在を示す目印になりました。

1878（明治11）年に明治天皇の北陸巡幸の経路となり、天皇はこの街道沿いの新崎の古山家（太古山日長堂）や内島見の近藤家（内島見行在所跡）で休憩・昼食をとっています。このとき沼垂貴賓館や内島見館も建てられました。

現在も、当時の人々が眺めたのと同じく、広大な田園や遠くに五頭山系の風景が開けます。近代日本の変革期の出来事が感じられるメモリアルロードです。

■川の道「旧新発田川」

木崎付近には街道に沿った川があります。旧新発田川です。

江戸～明治時代には、新潟から通船川経由で阿賀野川を横断して遡上し、木崎、そして新発田へと至る舟の通り道でした。人や荷物を運ぶ川舟が行き交い、木崎には舟待ちの人々を相手にした茶屋がありました。1878年、イザベラ・バードは新潟から舟に乗り、木崎で人力車に乗り換えています。

■宿場町「木崎」

新潟と新発田の中間に位置する木崎は、新発田街道と旧新発田川が並行する集落です。その為、江戸時代から交通の要所で、宿場として栄えました。江戸時代に活躍した十返舎一九や幕末の思想家吉田松陰は、旅の途中で新潟～新発田間を通り、木崎に宿をとっています。新潟～木崎間は舟で、木崎～新発田間は陸路を行きました。

安古左ヱ門と義経伝説 ～太夫浜霊苑と諏訪神社～

■安古左ヱ門の旧跡

太夫浜霊苑のやすらぎ塔の南側、小高い丘の中腹に安古左ヱ門の観音像とお堂があります。

安古左ヱ門は王朝の長者の一族で、多くの農民・漁民を導き、今の太夫浜の地を拓いたといわれています。安古左ヱ門は、大変信仰深く、日夜、観世音菩薩を尊信し、太夫浜の人々が心安らかに暮らせる地とするべく導きました。一説には、下の写真の観音像と伝えられています。

▲太夫浜霊苑やすらぎ塔
1974（昭和49）年に開発した太夫浜霊苑。現在、敷地面積7000㎡の墓地がある。奥に見える丘の中腹に安古左ヱ門の観音像がある。

▲中央が安古左ヱ門の観音像。左右には2体の石仏、奥にお堂がある。

▲義経が参拝したと伝わる太夫浜の諏訪神社

▲太夫黒の塔

■義経伝説

地元では、1189（文治5）年の建立と伝わる太夫浜の諏訪神社には、源義経と安古左ヱ門にまつわる伝説が伝わっています。

兄の頼朝に追われた義経主従が平泉へ落ち延びる途中に、太夫浜の安古左ヱ門を頼って一夜の宿をとらせた。しかし、すでに鎌倉から義経を捕らえるようにとの連絡が入っていたので、安古左ヱ門はその申し出を断りました。やむなく義経主従は、付近のお堂に分宿しました。

翌朝、追っ手が、諏訪神社を参拝中の義経主従を捕らえようとしました。しかし、義経主従に追い散らされ、義経らはここから去っていったそうです。

このとき、義経の愛馬太夫黒がこの浜で亡くなったので、ここを太夫浜と呼ぶようになったともいわれています。諏訪神社境内（宮ノ浦）には太夫黒の墓と伝わる塔があります。もともと宮ノ前（今の太夫浜小学校のところ）にありましたが、太夫浜青年会が現在地に移しました。

木崎村小作争議 ～新潟県三大小作争議～

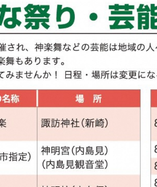
■木崎村小作争議の経過

明治、大正時代にかけての不況期に先祖から伝わってきた田畑を地主に売り渡して小作人となる農民が続出しました。小作料は収穫高の5～6割にもなり、苦しい暮らしを強いられました。

1922（大正11）年、横井と笠柳の集落では小作料の減免などを求めて小作組合を結成しました。この動きは、翌年には木崎村全域に広がり、木崎村農民組合連合会が結成され、木崎村の名を全国に広めることとなりました。運動は法廷闘争を主とし、小作農民たちは日本農民組合の支援を受けて闘いを続けました。

潟川村の地主 眞鍋家などは、未納小作料請求、耕作禁止、土地返還などの訴訟を起こしました。1926（大正15）年5月には、耕地への立ち入り禁止処分をめぐって、警官隊と組合員が衝突した「鳥屋浦事件」が起きました。

さらに7月、無産農民学校上棟式の夜には、松ヶ崎での「木崎なる小作料をめぐる争議ではなく、「人間として認めてもらいたい」と切望した小作人の政治・教育・農村経営などの民主化を目指した運動でもありました。



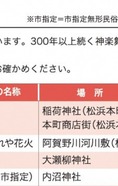
▲鳥屋浦事件（弾圧）羽白信濃氏作 木版画

■無産農民学校

1926（大正15）年5月、組合員たちは、木崎村の教育に不満を抱き、子どもたちを同盟休校させ、無産農民学校を内島見、鳥屋などに6カ所で開校し、ここに通わせました。

◀無産農民学校入口（看板）（内島見行在所跡）

その後、笠柳の西はずれ、高台の梨畑に無産農民学校の校舎が建設され、同年9月1日に開校式が行われました。50周年記念碑のある場所が、学校の西入口でした。設計はライト式建築の権威、遠藤新工学士で、1階96坪（316.8㎡）、2階12坪（39.6㎡）でした。



▲無産農民学校上棟式（1926年7月25日）

校長は賀川豊彦（作家・牧師）、授業は野口傳兵衛、原崇行らが担当しました。

しかし、公教育を堅持する立場の県知事と争議指導者の間で、同盟休校の解散、無産農民学校は高等農民学校として存続などの交渉が成立し、9月10日に無産農民学校は閉校しました。

高等農民学校には本科、専修科、研究科が置かれましたが、入学者が減少し、1927（昭和2）年に閉鎖され、校舎は1936（昭和11）年に取り壊されました。

阿賀野川の河跡

■北区に残る阿賀野川の河跡

阿賀野川は、現在の堤防ができるまでは暴れ川で、洪水などによりたびたび流路が変わりました。同方地区にある「十二潟」は、もともと阿賀野川の流路の一部で、それが三日月湖（潟）になって残ったものです。たくさんある河跡の中で、唯一水面を保つ貴重な三日月湖です。

■もう1つの河跡

同方地区には、ほかにも阿賀野川の乱流蛇行を良く伝える地形が残っています。太子堂～大久保～長戸呂と大迎の集落の間にある三日月形の低地帯です。

現在は、水田になっていますが、江戸時代の絵図を見ると、ここに「長戸呂潟」と呼ばれた潟がありました。十二潟よりも古い時期にできた三日月湖です。当時は、用水として利用したり、漁も行われていたりしましたが、だんだんと水田に変わっていったようです。

周辺の集落は古くから開発されているので、見どころもたくさんあります。新緑や紅葉の季節に、太子堂から大久保の旧堤防の道を歩いてみましょう。

太郎代の天曜観音　界隈

■太郎代天曜観音の伝説

天正年間（1573～92）に1人の異人僧がこの地へ来て、嬉愛山に参拝し、「この地のために観音像を造れ」といって去りました。

翌年、観音像を構えた一隻の船が太郎代の沖合にさしかかると、風はあるのに一向に進まなくなりました。船頭が不思議に思っていると夢枕に「ここを結縁の地である。我を陸揚げせよ」とお告げがありました。そこで、船に積んでいた観音像を浜に揚げると、船足が軽くなり、船は進むことができました。

翌朝、その観音像を頼守の境内へ安置しました。すると、不思議なことに、一夜にして像が倒れたり、場所を変えたりして安住しません。里人はこれこそ前年に僧が約束した観音像に違いないと悟り、堪寂山に移し、お堂を建てました。しかし、風もないのに船の屋根が飛散し、幾度建て替えをしても同じことを繰り返すばかりでした。とうとう里人が観音像を天曜にしると、それ以来、何事もなく平安な日が続いたということです。

そのため太郎代天曜観音と呼ばれるようになったそうです。

他にも、この観音像にまつわる伝説が伝わっています。

▲堪寂山金亀庵の境内に天曜観音がある。

▲太郎代の地名のもとになったという尊藤太郎太(太郎太夫)の銅魂碑も境内にある。

▲太郎代天曜観音

■太郎代に道路を造った小熊幸一郎

幸一郎は太郎代生まれで、北洋漁業で成功した北海道国鉱の実業家です。

他地域へ行くときは高い砂丘を越えなければならず、難渋を極めていた太郎代の住民のために、私財を投じて横土居に道幅が3間（5.4m）、長さ670間（1.2km）の道路を造りました。

村人はその功績をたたえ、境内に「里道改築碑」や幸一郎像を建立しました。集落内にも同様に「里道修築碑」があります。

▲地区の繁栄を見守る小熊幸一郎像

葛塚市と歩んできたまち

■河川交通の要所ー葛塚ー

葛塚は、新井郷川による物流の集積地で、約260年前に葛塚市が開かれて以来、地域経済の中心として発展しました。

下の写真は江戸時代に描かれた「下興野新田絵図」（市指定文化財）です。町並みができあがったばかりの様子が描かれています。

現在の葛塚地区は、この江戸時代の絵図に描かれた道や神社を残しながら、新しい住宅・道路ができています。

■葛塚市が開かれるまで

葛塚市とともに歩んできた葛塚地区を紹介します。

■葛塚市が開かれるまで

市場が開かれた日を記念して始まった石動神社と稲荷神社のお祭りは、現在「葛塚まつり」へと受け継がれています。開市を許可された日を忘れないために、月日は変わりましたが、現在も毎年9月8日にまつりが行われています。

まつりで稲荷神社に奉納される「他門の神楽」は、水原代官所で葛塚市を開くことを許可された帰ってきたとき、人々が喜びサン俵（サンパイ）を頭にのせて神楽を舞ったのが始まりと伝えられています。

また、稲荷神社境内にある市神社は、市場開設に力を尽くした庄屋　遠藤七郎左衛門宗寿など遠藤家の3人がまつられています。

北区の主な祭り・芸能

※市指定＝市指定無形民俗文化財

北区では、さまざまな祭りが開催され、神楽舞などの芸能は地域の人々によって長く守り伝えられています。300年以上続く神楽舞や、数十年間中断した後に復活した神楽舞もあります。

みなさんも地域の祭りに出かけてみませんか！ 日程・場所は変更になることがありますので、事前にお確かめください。

日　程	祭り・芸能の名称	場　所
4月9日 8月27日	新崎伊佐弥神楽	諏訪神社（新崎）
4月17日 9月第3土曜	内島見の神楽（市指定）	神明宮（内島見） （内島見観音堂）
4月中旬の土曜 8月下旬の土曜	大久保の神楽	神明社（大久保）
4月下旬の土曜 10月第1土曜	太子堂の神楽	上宮社（太子堂）
4/19日 8/15日	長戸呂の神楽	神明宮（長戸呂）
5月 9日 10月9日	高森の神楽（市指定）	高森薬師堂 稲荷神社（高森）
8月15日	松浜盆踊り	稲荷神社（松浜本町）
8月第3土曜	長場の神楽（市指定）	神明宮（長場）
8月第3土曜・日曜	早通ふるさと祭り	JR早通駅前など
8月第3土曜	上堀田の神楽	—
8月第4土曜	長戸の神楽	三柱神社（長戸）
8月24日、25日	松浜まつり	稲荷神社（松浜本町） 本町商店街（松浜本町）
8月25日	阿賀野川にざれや花火	阿賀野川河川敷（松浜）
8月最終土曜	大潮柳の神楽	大潮柳神社
8月30日、31日	内沼の獅子舞（市指定）	内沼神社
8月30日、31日	内沼の神楽	内沼神社
9月5日	豊栄大民謡まつり	JR豊栄駅前通り
9月6日～8日	葛塚まつり	石動神社（白新町） 稲荷神社（葛塚）
9月6日	正穴の神楽（市指定）	石動神社（白新町）
9月7日、8日	他門の神楽（市指定）	稲荷神